
編集後記

未曾有のあの大地震からやっと3年（早くも3年？）が経過した。しかし、あれから冷静になって考えてみれば、あの地震は決して「未曾有＝未だかつて経験がない」なものではなかったようである。我々透析医会もまさに「身体を張った」支援を現地で行ってきた。しかし、この度の地震が本当に「未曾有」だったのだろうか……。古文書によれば、この度の地震と同規模と思われる「貞観大地震」が平安時代の前期（9世紀半ば）に起こっており、大きな津波が襲ったなどの甚大な被害があったとのことである。

地質学的には、太平洋プレートとフィリピン海プレートが潜り込む日本列島では地殻の歪みが蓄積され、およそ1,000年の周期で大きな地震が生じており、今回はその現れであったとのことである。そのような科学的説明には反論ができないが……。いわゆる「文明論」からみれば、本当に現在の人間の英知の及ばぬところだったのであろうか？ エジプト、メソポタミア、インダス、北京での人類の文明の発祥・発展・衰退の過程は、人類の英知の限界と自然の力の偉大さを当に指し示すものではなかろうか。これらの文明のいくつが天変地異や地震や津波で途絶えたのかは明らかではないが、乾燥・洪水などの異常気象がいくつかの文明を滅亡させたことはすでに考古学が明らかにしていることでもある。

さて今回の医会雑誌では、医会が大阪で行った「透析医療における Current Topics 2013」での講演記録を中心に多彩な内容を盛り込んでお送りする。いずれもが「明日からの臨床に直結する」内容であると自負している。

今後も本誌は会員のご意見を重要視しながら、益々の改善を重ねていきたいと考えておりますので、忌憚のないご意見をお待ちしております。

広報副委員長 鈴木正司